



社会福祉法人おおぞら会 広報紙

SSKP

はばただより

vol.148

復活！

はばたけ秋まつり！



やっとな～♪

あ、やっとな～♪

新型コロナ、台風…いろいろあって、地域のお客さんをお招きして開催するのは5年振りとなった『はばたけ秋まつり』。夏からコツコツと準備を重ね、手作りの装飾や顔出しパネル、提灯などでお祭りの雰囲気を作ってきました。当日は晴天に恵まれ、ゲストの紅連さんによる阿波踊りで幕を開け、鳴り響くお囃子と踊り手さんの踊りで会場が一体となりました！小さい庭ではありますが、地域の方もはばたけの利用者もみんなが集う温かな雰囲気。「戻ってきた～」と、お囃子とともに心が弾みます。ご近所さんやかつての懐かしい職員、ボランティアの方々もたくさん来てくださり、「工房時」のお弁当屋、「ばぱん」のパン、おからドーナツといった模擬店も大盛況。子どもたちも参加できるワークショップやゆったりベンチで思い思いに過ごし、最後のはばたけダンスチームのステージで盛り上がりました。お越しいただいた皆様、ご協力下さった皆様、ありがとうございました！

(アクティビティセンターはばたけ)

新しい年を迎えて…

社会福祉法人おおぞら会理事長 西原雄次郎

新年、明けましておめでとうございます。本年も多くの皆様のお支えを得て、新しい年を迎えることができました。心から感謝申し上げます。

今回は少し私のお話をさせていただきます。私が左腕に大きなけがをしたのは、昭和31年(1956年)11月19日で、小学4年生でした。体育の授業時に、先生の指示で、二人一組で肩車をして、互いに落とし合うという、ちょっと考えても危険な内容の「ゲーム」を行いました。私は、詳細は覚えていませんが、何人もの級友の下敷きになり、左腕に「開放性複雑骨折」という損傷を負いました。3か所で骨が皮膚を突き破り、外へ飛び出すというとんでもない大けがでした。私は、保健の先生に応急措置をされ、左腕を三角巾で固定され、その後担任の先生の自転車の後ろに乗せられて、最寄りの外科医院に連れて行かれました。とてもそこでは手に負えないと言われて、大阪市内の病院へタクシーで運ばれました。それから三日間、私は意識を無くしていたらしく、記憶はありません。

この最初の段階で消毒が適切でなかったらしく、「外傷性骨髓炎」という病気になり、結局6年生の6月頃まで、病院も転院し、入院・退院を繰り返しました。この間、3度の手術を受け、当時の「売血」による輸血を繰り返した結果、B型肝炎のキャリアにもなり、「一上肢の機能全廃」という名前をもらうことにもなりました。(不思議なことに、数年前にB型肝炎の抗原は陰性になりました。)

当時の社会情勢はどうだったのか、今となっては疑問点や不条理なことも多くあります。学校はなぜ救急車を呼ばなかったのか。また、授業中の事故でしたが何の経済的な補償もありませんでした。国民健康保険制度も不十分でした。少年だった私には知らされませんでした。我が家は私の医療費の負担に追われ、家計がひっ迫してしまいました。学校の成績通知表には「長期欠席のため成績つけられず」と記入され、さらに左腕が不自由になると、第一志望の高校を受験させてもらえませんでした。入試の前日に保護者と一緒に来るように言われ、これでもかというくらいにひどいことを言われ、最終的に「明日の入試を休んでほしい」と言われたのでした。「昔は良かった」という人もおられますが、「良いこともあった」けれど、とんでもないことも沢山ありました。これが常識として通っていた時代からは数十年の時が経ち、ある一面では社会も少しはよくなったと言えるのかもしれませんが、法人を運営する中ではまだまだ変わらない面はあると痛感します。

今私は多くの皆さんに支えられ、その職責を果たすべく頑張らせていただいています。本当に感謝の日々です。誰でも、心身に障害を負うという結果になっても地域と関わりながら、可能な限り

「普通の暮らし」が出来るように、個人の努力ではカバーできない部分を支援するという役割を、私たち“おおぞら会”は担ってきました。経営的には「苦境」が続きますが、各事業所で、これまでにない努力と工夫を重ねて頑張っています。何とぞ皆様、今年も私たちを見守り、変わらぬご支援を賜りますよう、伏してお願い申し上げます。



グループホームの休日…

野ざきの家

【小規模多機能型居宅介護】

事業所では、日々の利用者支援はもちろんのこと、職員の援助技術向上を図る取り組み、感染症対策、災害時の備え、虐待防止研修の取り組みなど、“事業所としてやるべきこと、やらなくてはならないこと”の規定が年々細くなってきています。これは、近年のさまざまな施設運営における悪質な事件が明るみにになっている状況や、コンプライアンス遵守といった時代の流れのようなものが影響しているかと思います。もちろんそれぞれの意義は解りつつも、「この研修は1年間で〇回開催しなければならない」「この記録や報告書を〇年残しておかなければならない」「このマニュアルをつくらなくてはいけない」「この委員会を設置しなくてはならない」など、回数や取り組まなくてはいけない内容なども細かく、支援以外のところで費やす時間も年々増えているのも実態です。記録や報告に追われ、日々のことが疎かになってしまっただけでは本末転倒ですが、気をつけていないとどこを向いて仕事をしているのかわからなくなりますし、人や時間のやりくりも正直厳しいと感じることも多いです。

そんな時間の制約がある中で研修をいかに実のあるものにするか…管理者としては難しいところであり、自ら開催する施設内研修などは、職員としては気がすまないところもあるだろうな…という気配を感じつつですが、その分丁寧に準備をして充実した研修にしないといけないと思い計画をたてて行っています。貴重な時間だからこそ、職員が興味関心を持てるよう、主体的に参加できる仕掛けを考えなくてはなりません。野ざきの家は職員数が少ないため、このような取り組みがしやすいメリットがあり、一人ひとり意見が言いやすい雰囲気、ディスカッションを活発にしやすいですが、研修に限らず会議などでも、その人数時間の設定、進行の工夫は大事であると実感します。しかし、野ざきの家では、現在ほぼ3年間同じ顔触れなので若干の「閉塞感」を感じています。これは、新型コロナウイルス感染拡大も相まって外部の研修に参加が

出来ていなかったことが大きかったですが、本来職員にとって、地域で暮らす利用者のことを考える上で、地域とのつながりや外部研修での刺激は大事な視点を養う機会として重要ですので、この閉塞感を打開すべく外に出ることを意識したいと思っています。今年くらいからは地域の交流も戻り、地域包括支援センターで開催されている事例検討の交流会、事業者連絡会の各部門の研修など貴重な時間も戻り喜ばしい限りです。

人手不足の昨今、研修でひとり現場の職員が抜けるということも容易ではなくなってきました。事務作業の時間も調整するのが大変になっています。しかしながら、施設を運営していく上で大事なことをきちんと行っていくことが信頼につながると思いますので、効率よく計画的に取り組む、事業所として利用者やご家族のみなさま、そして地域に還元していければと思っています。

(管理者 齋藤貴彦)



クリスマスツリーを飾るとあっという間に年越し…
2024年も一年元気に笑って過ごしましょう！

工房 時【就労移行支援・就労継続B型】

昨年のはばただよりを振り返ってみると、この時期には数年ぶりの旅行で鉄道博物館に日帰りでお出かけしたことを書いていました。去年よりコロナは落ち着きましたが、インフルエンザの流行など依然として落ち着かない世の中で、工房時の活動もすべて元通りとはなっていないところもあります。物価高騰や食材（業務用バター）不足など就労支援事業の収支にも響いており、所員の皆さんの冬のボーナスは少しですがお出しすることができた…という状況です。やむなく製品の値上げも実施させていただきましたが、事業所として対応できる部分は限られており、やはり社会全体がなんとかよい方向に進んでいくことが大きな課題なのだろうとも感じています。

さて、今年度の日帰り旅行は「八景島シーパラダイス」へ行ってきました。初めて参加の方も多く、皆さん楽しみにしていた一日は晴天になりましたが、風が強く吹いたため、希望していた乗り物が運行停止になったり…予定通りにならなかったところもありましたが、バイキング形式の昼食とメインのイルカショーをみんなで楽しんできました。仕事・作業がメインの工房時では、日常的にはお楽しみの活動はそれほど多くありません。いつもと違った雰囲気や表情がみられる場面は、所員のみなさんにも職員にとって新鮮なものです。

少しづつになると思いますが、こうした場面を増やしていけるような世の中の変化にも期待しつつ、みんなで新たな一年を迎えたいと思います。



日常の仕事では、うどん麺のギフトや、「おもむく食堂」店舗での冬季限定の肉うどんの提供など、毎年恒例の冬の販売も行っていますので、ぜひお近くの方は店舗にもお越しください。

（管理者 中野昭精）

アソビティセンターはばたけ (生活介護事業)

やっとなってきた！行事いろいろ♪

暖かい秋から冬に変化し、その中で色々な活動や行事を行ってきました。今年度はそれぞれの行事で「これまで通り」が戻ってきて、にぎやかに“はばたけらしい”様子がたくさんみられました。慎重に検討を重ねて延期してきた地域の方々との交流やバスでの日帰り旅行など…やっとな！ようやく！利用者の皆さんが一番待っていた活動ができるようになってきました。

あたりまえにやっていたことがしばらくできなくなり、「何でできないのか？」の理解が難しい皆さんが何とかその状況を受け入れ、やっとな復活できた喜び…。その一つ一つをふりかえり、新しい春に向けて進んでいきたいと思います。

*旅行復活！

日帰り

大きなバスを借りてみんなで出かける旅行。新型コロナの拡大に伴い中止が続いた中で、みんなが一番待ち望んでいた行事がようやく再開できました。

今回は2グループに分かれ、埼玉県の飯能にある話題の「ムーミンバレーパーク」へ行ってきました。秋が深まった時期に紅葉とクリスマスの飾りが一度に見られてお得な一日。

ムーミンと会って、おみやげ買って…あつという間でしたが、それぞれ満喫することができました！



地域防災訓練に参加しました

10月29日に三鷹市西部地区の地域防災訓練に参加してきました。会場の第二小学校まで避難を想定しながら、少人数グループで移動し、広い会場での煙体験や消火訓練に参加。ご近所の方々や消防団、消防署の方にも挨拶でき、あらためて地域の皆さんと繋がっていることが感じられました。

はばたけ内でも「劇場型訓練」を行い、昼食も非常食を使ってみるなど日頃からの備えを意識しながら、職員の動きも確認し、実りある一日となりました。



○送迎車輛寄贈のお礼○

日々の通所や活動には欠かせない送迎車輛について、禅林寺龍華会基金様より車椅子対応のリフト車を1台ご寄贈いただきました。毎日の皆さんの送迎や外出などの活動で大切にさせていただきます。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

(管理者 柴田信)



あすは Kids

《放課後等デイサービス事業》

元気印のkidsの日々！初夏～年末ver.をまとめてお届けします！

夏休み

猛暑の毎日…お庭のプールが大活躍！さらに
流しそうめん大会で、少しでも涼しく楽しく！
元気に夏を乗り切りました！！



電車見学



太宰治も愛した三鷹の跨線橋。鉄道好きなら一度は訪れる
場所ですが、昨年12月でとうとう取り壊されることにな
ってしまいました。キッズの電車好きっ子たちも、名残惜
しいのか食い入るように電車を観ていました。



地域交流

HAPPY HALLOWEEN

あったか祭り。けやき祭り。コミセン祭り。

地域のおまつりには、積極的に参加しました！ハロウィンには近所の
放デイさんと合同でパーティ！トとのつながり…大切にしたいですね。



おまつりで見たブルー・ル
かっこよかったね



ほかにも中央公園の花壇にお花を植えたり、クリスマス
パーティを行い、放課後のたのしい時間を過ごして
きました！子どもたちの笑ってる顔を想像しながら
支援内容を考えると私まで幸せな気持ちになります。
今年もたくさんの笑顔を作れるように尽力していき
ます！
(児童支援員 渡邊智博)



おおぞら会後援会ニュース



会費納入
ご寄付のお礼

新年あけましておめでとうございます。昨年も多くの皆様に会員となっただき、ご寄附をいただきました。誠にありがとうございます。コロナ以降、法人の事業は財政的なダメージから回復しきっていないところもあり、依然として困難な状況が続いております。なんとか、この状況を脱し、未来ある事業展開をしていけるよう法人を支えていきたいと思っておりますので、今後とも、後援会活動にお力添えを頂きますようよろしくお願いいたします。

社会福祉法人おおぞら会後援会

会長 吉野 壽夫

会費・ご寄付 ありがとうございます (令和 5 年 6 月 1 日～令和 5 年 11 月 30 日集約分)

★会費のご納入 (敬称略)

個人 79 名、法人 2 社より会費のご納入をいただきました。
ありがとうございました。

★後援会へご寄附 (敬称略)

個人 10 名、法人・団体 2 社より、後援会へご寄附をいただきました。
ありがとうございました。

★法人・各事業所へご寄附 (敬称略)

個人 11 名、法人・団体 3 社より、法人・各事業所へご寄附を頂きました。
ありがとうございました。

※加入は任意です。

年会費は法人運営を応援し、法人の活動を地域に広めるため大切にに使わせていただきます。

はばたけだよりの発送に際し、振込用紙を同封させていただいております。

(入会・更新済みの場合も同封しておりますことをご了承ください)

後援会へご入会・ご更新をお願いいたします

年会費 個人…2,000円 団体…10,000円

年会費は、お手数ですが直接お持ちいただくか下記の口座にお振込みください

郵便口座 00160-0-39163

口座名義: 社会福祉法人おおぞら会後援会

information

支援スタッフ募集！

採用条件、労働条件等の詳細については、おおぞら会本部へ直接お問い合わせいただくか、またはハローワークの情報もしくは東京都福祉人材センターのホームページ「福祉のお仕事」www.fukushi-work.jp/、または「ジョブメドレー」で検索してご確認できます。

人と関わるのが好きな方
タフでガッツのある方
大歓迎です！



★日中お時間のある方★

- ・障害がある人たちの日中の作業活動（散策・創作・運動など）
- ・送迎車の運転・添乗（短時間勤務）

★休日や夜間帯で効率よく時間を活用したい方★

- ・グループホームの宿直夜勤（16:00～翌 10:00）
- ・障害者のおでかけサポート（ガイドヘルパー）

*泊まり勤務には手当がつきます

働き方いろいろ

正規職員・契約職員（常勤）
パート職員・アルバイト

…それぞれ活躍できる現場があります！

法人のこと、施設のこと…わからなくて迷っている方は、

まずは見学からどうぞ。

おおぞら会本部

0422-30-5571（中野）まで



社会福祉法人おおぞら会

- | | | |
|---|----------------|------------------|
| ・ アビリティセンターはばたけ （生活介護事業） | 三鷹市野崎 3-17-9 | tel 0422-32-3234 |
| ・ 工房時 （就労移行事業・就労継続 B 型） | 三鷹市野崎 2-6-41 | tel 0422-30-5571 |
| ・ 野ざきの家 （小規模多機能型居宅介護事業） | 三鷹市野崎 2-6-41 | tel 0422-30-5575 |
| ・ サポートネットあすは （移動支援[居宅介護]事業） | 武蔵野市八幡町 3-3-26 | tel 0422-36-5151 |
| ・ あすは Kids （放課後等デイサービス） | 武蔵野市八幡町 3-3-26 | tel 0422-36-5151 |
| ・ つながなかまの家・さくらハイツ・つむぎの家 （共同生活援助） | | tel 0422-26-1320 |

自分史上一番大きな手術を経験した。今の状態から後遺症を軽減するための二次的手術だったので、私自身の中で切迫感がさほどなく、先生から十分な説明もあったが、以前の手術経験から「あんな感じだろう」と高を括っていた。しかし7時間の大手術は術後回復までが辛く2泊のICU生活は管でつながれ寝返りを打てず、ただただ時間が過ぎるのを待つことの苦しさたるや…。そこから日ごとに食事が変わり、病棟に戻り、包帯が取れ、10日で人間らしい姿に戻ったのだが、持ってきた本を読みYouTubeを見ては院内散歩して、出される食事を食べ、決まった時間に寝る…という生活。掃除してもらい楽だけれど…なんか違う。退院した夜、自分の家でほっとしたものもあるが、何より自分で決めて用意して片付けて暮らす…面倒だけれど、その手間のある日常が実は尊いことなのだとあらためて実感した。高齢で独り暮らしの母が、今の暮らしを変えたくないという気持ちが少しわかった気がした。

（いりくらあきこ）

発行 障害者団体定期刊行物協会 〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17-102 【頒価 50 円】

企画・編集 社会福祉法人おおぞら会 編集責任者：入倉暁子